

## 4. 専門分野Ⅱ

専門分野Ⅱ目標：各発達段階にある看護の対象理解に努め、疾病予防、健康回復に伴う看護方法を学ぶ。

### 成人看護学

- 目標：1. 成人期にある対象について理解する  
 2. 健康の動向を捉え機能障害を持つ人の生活と生命価値に対する理解を深める  
 3. セルフケア理論を中心に健康回復と疾病予防の看護方法を学ぶ  
 4. 成人保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う  
 5. 看護学生として成人看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	1年		2年		3年	
						4～9	10～3	4～9	10～3	4～9	10～3
成人看護学概論	1	15		ライフサイクルにおける成人期の位置づけを明確にし、疾病予防・健康課題・回復過程の特徴と看護の役割を理解する。	1. 成人と生活 2. 成人への看護アプローチの基本 3. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4. 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 5. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 6. 生活環境に対応した看護 7. 健康を育む看護の場と活動	—					
成人看護学方法論Ⅰ	1	15		成人期に応じた健康の維持増進及び疾病予防の看護を理解する	1. 生活と健康 2. ヘルスプロモーションと看護 3. 健康をおびやかす要因と看護		—				
成人看護学方法論Ⅱ	1	30		各機能障害における健康問題とそれに応じた看護の方法および必要な看護技術を学ぶ。	1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護と技術 2. 循環機能障害を持つ患者の看護と技術 3. 消化・吸収障害を持つ患者の看護と技術			—			
成人看護学方法論Ⅲ	1	30			4. 排泄機能障害を持つ患者の看護と技術 5. 内分泌代謝機能障害を持つ患者の看護と技術 6. 身体防御機能障害を持つ患者の看護と技術			—			
成人看護学方法論Ⅳ	1	30			7. 脳神経機能障害を持つ患者の看護と技術 8. 運動機能障害を持つ患者の看護と技術 9. 女性生殖障害を持つ患者の看護と技術			—			
成人看護学方法論Ⅴ	1	30			健康問題を把握し問題解決思考の中で健康レベルに合わせた必要な看護方法と技術を修得する	1. 手術をうける患者の看護と術前後の看護技術 2. 終末期にある患者とその家族への看護とその技術 3. がん患者の看護とその看護技術				—	
成人看護学実習Ⅰ	2	90		治療を受けながら生活する人に行われている看護を学ぶ。	1. 入院して治療を受ける患者の看護 2. 機能障害の治療に応じた必要な看護を導き出す過程の理解 3. 医療チームの一員としての自覚						—
成人看護学実習Ⅱ	2	90		急激な身体侵襲を受けた患者と家族の看護を学ぶ。	1. 急激な健康状態の変化を伴う患者の看護 2. 急性症状のある患者の看護の理解 3. 医療チームの一員としての自覚						—
成人看護学実習Ⅲ	2	90		患者と家族の状況に応じた看護を実践し、医療チームの一員として行動する。	1. 慢性的な変化および慢性的な健康課題をもつ患者と家族の状況に応じた看護の実践 2. 看護実践に対する根拠の明確化 3. 実施に対するリフレクション 4. 医療チームの一員として責任ある行動の実践 5. 看護体験の共有と看護観の明確化						—

科目名	成人看護学概論	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学
担当教員	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)
科目目標	1. 成人の生活と健康に関する基本的知識を理解する。 2. 成人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方やその看護方法を理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 7.5	第1章 成人と生活 第3章 成人への看護アプローチの基本 地域での健康を支える活動；市民フォーラムへの参加 第6章 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 第7章 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 第8章 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 第13章 変化する医療、生活環境に対応した看護 第4章 健康をはぐぐむ看護の場と活動 (特別講義) 終講試験	講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験で評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 厚生指標 国民衛生の動向 厚生統計協会		

科目名	成人看護学方法論Ⅰ	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学
担当講師	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)
科目目標	1. 現代生活における健康リスクと成人の健康問題との関係について理解する。 2. 成人の健康問題と健康生活を支えるシステムについて理解する。		
科目概要		科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 7.5	第2章 生活と健康 A 成人各期の健康問題と受療状況・疾病、死亡の動向 B 生活と健康を守り育むシステム 第4章 ヘルスプロモーションと看護 第5章 健康をおびやかす要因と看護 A 健康バランスの構成要素 B 健康バランスに影響を及ぼす要因 C 生活行動がもたらす健康問題とその予防 終講試験	講義
評価方法	1 回の筆記試験で評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 厚生指標 国民衛生の動向 厚生統計協会		

科目名	成人看護学方法論Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学
担当教員	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 呼吸、循環、消化・吸収機能障害が人間にもたらす生命の危機と身体的苦痛及び生活障害を理解し、それに対する看護方法を学ぶ。		
科目概要	回数	科目内容	担当
	① ②	1 <呼吸・循環機能障害をもつ患者の看護> 呼吸・循環機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 2 呼吸・循環系に健康課題をもつ患者の特徴 3 事例患者に対する看護過程 4 ; 患者の問題の捉え方、導き出し 5 // 6 ; 経過をふまえた看護 7 ; 治療的側面をふまえた看護 その1 8 ; その2 9 看護診断を使って問題と必要な看護を考える 10 患者体験と生活指導のあり方の考察	
			講義 演習

	③	11 <消化吸収機能障害をもつ患者の看護> 12 消化吸収機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 13 消化器系に健康課題をもつ患者の特徴 14 事例患者に対する看護問題の捉え方、導き出し 15 終講試験 および まとめ 実技試験①②③		
評価方法	1回の筆記試験、1回のアセスメントに基づく実技試験、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書 参考書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ③ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護技術プラクティス 学研 別巻 臨床検査 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断			

科目名	成人看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学
担当教員	㊟		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 内分泌・代謝、排泄、身体防御の機能障害が人間にもたらす生命の危機と身体的苦痛及び生活障害を理解し、それに対する看護方法を学ぶ。			
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法
	④	1 <内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護> 2 内分泌・代謝機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 3 健康課題をもつ患者の特徴 4 事例患者に対する看護過程 5 ; 患者の問題の捉え方導き出し、経過をふまえた看護 6 ; 治療的側面をふまえた看護 その1 7 ; その2 8 看護診断を使って問題と必要な看護を考える 9 患者体験と生活指導のあり方の考察		講義 演習
	⑤	10 <排泄機能障害をもつ患者の看護> 11 腎機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 12 腎疾患をもつ患者の看護、透析療法を受ける患者の看護 13 泌尿器の機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 14 泌尿器疾患をもつ患者の看護 尿の異常、排尿症状 15 泌尿器の症状・検査・治療処置を受ける患者の看護		
	⑥	12 <身体防御機能障害をもつ患者の看護> 13 身体防御機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 14 症状・検査・治療処置を受ける患者の看護 15 疾患をもつ患者の看護 16 終講試験 および まとめ 17 実技試験④⑤⑥		
評価方法	1回の筆記試験、1回のアセスメントに基づく実技試験、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書 参考書	④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 看護技術プラクティス 学研 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断			

科目名	成人看護学方法論Ⅳ	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学
担当教員	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 脳神経、運動、女性生殖器障害が人間にもたらす生命の危機と身体的苦痛及び生活障害を理解し、それに対する看護方法を学ぶ。		
科目概要	回数	科目内容	担当
	⑦	<脳神経機能障害をもつ患者の看護> 1 脳神経機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 2 健康課題をもつ患者の特徴 3 事例患者に対する看護過程 4 ; 患者の問題の捉え方導き出し、経過をふまえた看護 5 ; 治療的側面をふまえた看護 6 看護診断を使って問題と必要な看護を考える 7 8	講義 演習
	⑧	<運動機能障害をもつ患者の看護> 9 運動機能の解剖生理と病態治療のフィードバック 10 健康課題をもつ患者の特徴 11 事例患者に対する看護過程 12 ; 患者の問題の捉え方導き出し、経過をふまえた看護 ; 治療的側面をふまえた看護 看護診断を使って問題と必要な看護を考える	
	⑨	<女性生殖機能障害をもつ患者の看護> 13 女性生殖機能の解剖生理と病態治療のフィードバック、症状・検査・治療を受ける患者の看護、疾患をもつ患者の看護 14 終講試験 および まとめ 15 実技試験⑦⑧⑨	
評価方法	1 回の筆記試験、1 回のアセスメントに基づく実技試験、看護過程の演習記録、出席点で評価する。		
教科書 参考書	⑦系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 脳神経 医学書院 ⑧系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 運動器 医学書院 ⑨系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 看護技術プラクティス 学研 電子辞書; 治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開、NANDA-I 看護診断		



科目名	成人看護学実習Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学（臨地実習）	
担当教員	㊟	単位数（時間）	成人看護学実習Ⅱ	2単位（90時間）
実習目的及び実習目標	<p>（目的）対象の特性をふまえ、健康レベルに応じた看護課題に対する看護を展開する基礎的能力を養う。</p> <p>（目標）1. 患者の生涯発達に応じた身体的・心理社会的変化を理解し健康状態に応じた看護を学ぶ</p> <p>2. 急激な健康状態の変化から回復過程にある患者・家族への看護を学ぶ</p> <p>3. 終末期にある患者・家族への看護を学ぶ</p> <p>実習要項 参照</p>			
科目概要	科目名	科目のねらい	時間数	実習施設
	成人看護学実習Ⅱ	急激な健康状態の変化に伴う全身状態と精神的危機状況を査定し回復に向けた看護援助方法を学ぶ	90	病棟
	終末期の患者・家族の健康状態や苦痛緩和に向けた看護援助方法を学ぶ	緩和病棟		
評価方法	成人看護学実習Ⅱ評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕～〔15〕 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・臨床検査・救急看護学 医学書院</p> <p>エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規</p> <p>看護技術プラクティス 学研</p> <p>看護診断を導く情報収集アセスメント 学研</p> <p>パーフェクト臨地実習ガイド 成人看護Ⅰ 照林社</p> <p>糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 文光堂</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ</p> <p>電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断</p> <p>その他、実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する</p>			

科目名	成人看護学実習Ⅲ	教育内容	専門分野Ⅱ 成人看護学（臨地実習）	
担当教員	㊟	単位数（時間）	成人看護学実習Ⅲ	2単位（90時間）
実習目的及び実習目標	<p>（目的）対象の特性をふまえ、健康レベルに応じた看護課題に対する看護を展開する基礎的能力を養う。</p> <p>（目標）1. 患者の生涯発達に応じた身体的・心理社会的変化を理解し健康状態に応じた看護を学ぶ</p> <p>2. 慢性的な変化および慢性的な健康課題をもつ患者・家族への看護を学ぶ</p> <p>3. 終末期にある患者・家族への看護を学ぶ</p> <p>実習要項 参照</p>			
科目概要	科目名	科目のねらい	時間数	実習施設
	成人看護学実習Ⅲ	慢性疾患や慢性的な健康課題にある患者・家族の健康状態を査定し疾病管理・苦痛の緩和にむけた看護援助方法を学ぶ	90	病棟
評価方法	成人看護学実習Ⅲ評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕～〔15〕 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・臨床検査・救急看護学 医学書院</p> <p>エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規</p> <p>看護技術プラクティス 学研</p> <p>看護診断を導く情報収集アセスメント 学研</p> <p>パーフェクト臨地実習ガイド 成人看護Ⅰ 照林社</p> <p>糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 文光堂</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ</p> <p>電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断</p> <p>その他、実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する</p>			

# 老年看護学

- 目標： 1. 老年期にある対象について理解する  
 2. 老年者の生活史を理解し、信条・信念・価値観に対する理解を深める  
 3. エンジンの考え方を中心に老年者の健康回復と疾病予防の看護方法を学ぶ  
 4. 老人保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う  
 5. 看護学生として老年看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	1年	2年		3年
						1～3	4～9	10～3	5～12
老年看護学概論	1	30		ライフサイクルにおける老年期の位置づけを明確にし、疾病予防、健康課題、回復過程の特徴を学び看護の役割と機能を理解する。	1. 老いる 老いを生きる 2. 加齢に伴う変化 3. 老年看護の役割と理念 4. 高齢者のアセスメント 5. 高齢者の生活機能 6. 老年看護技術の考え方	—			
老年看護学方法論Ⅰ	1	15		社会（保健・医療・福祉）の中で老年期の人に応じた健康の維持・増進及び疾病の予防に対する看護の役割が理解できる。	1. 高齢者を取り巻くケアシステムと看護の役割 2. 高齢者の健康を支えるための取り組みと活用方法 3. 高齢者ケアにおける他職種との連携		—		
老年看護学方法論Ⅱ	1	30		健康課題に応じた老年者への援助方法を理解する。	1. 高齢者の生活機能を整える看護 2. 健康逸脱からの回復と終末期を支える看護 3. 老年期にある人の看護（認知症・身体可動性障害）		—		
老年看護学方法論Ⅲ	1	30		老年期の対象の特性をふまえて疾病構造や健康課題を把握し、必要な看護技術を習得する。	1. 老年症候群 2. 老年者の疾患の特徴 3. 高齢者と薬 4. 健康課題と看護過程 5. 事例演習と看護技術			—	
老年看護学実習Ⅰ	2	90		地域・施設で生活する高齢者と関わり、その人と生活がわかり、介護予防、健康増進、日常生活における必要な援助を学ぶ。	1. 地域・施設で生活する人の特徴 2. 施設の特徴に応じた活動、自立、残存機能に応じた援助 3. 施設での安全対策、事故防止の実際 4. 高齢者への保健、医療、福祉の現状と課題の考察				—
老年看護学実習Ⅱ	2	90		加齢変化と健康課題をもつ高齢者を理解し、健康回復に必要な看護を学ぶ。	1. 高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションの実際 2. 生活障害の把握と生活機能の保持における援助の理解 3. 健康回復に必要な看護の理解 4. その人らしく生活するための看護の導き出し				—

科目名	老年看護学概論	教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学
担当教員	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 老年者の生活と健康に関する基本的知識を理解する。 2. 高齢者の加齢に伴う変化の特徴、身体的機能の変化、精神的機能の変化、社会的機能の変化について理解する。 3. 高齢者の生活機能を理解する。 4. 高齢者にとっての健康の特徴とその捉え方について考えることができる。 5. 加齢に伴う身体的徴候の理解とその援助の概要が分かる。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3・4・5 6・7 8・9 10 11・12 13 14 15	科目ガイダンス 老いるということ、老いを生きるとうこと 加齢に伴う変化の理解と生活の理解 高齢者の生活機能の変化 高齢者の生理的特徴 老年期にある人の健康障害の特徴 老人福祉センター訪問 高齢者の理解 高齢者のアセスメント 老年看護の基盤 老年看護技術の考え方 終講試験およびまとめ	講義 演習 *高齢者 擬似体験
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		

科目名	老年看護学方法論Ⅰ	教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学
担当講師	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)
科目目標	1. 高齢者の様相を統計から理解し、グループで共有する。 2. 超高齢社会の今日的課題である身体拘束や高齢者虐待を理解する。 3. 介護保険や成年後見制度など高齢者の自立と権利を守るための社会制度について理解する。 4. 高齢者施設や在宅サービス機関など地域の諸資源における看護が理解する。 5. 高齢者に対する介護予防について理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 7.5	高齢社会と社会保障 ; 統計データ、社会保障、医療保険・介護保険 高齢者保健医療福祉の変遷、成年後見制度 地域包括ケアシステム 他 生活・療養の場における看護の展開 ; 介護予防と看護 在宅高齢者への看護 医療施設における看護 保健医療福祉施設における看護 まとめ 終講試験	講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		

科目名	老年看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学
担当講師			単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 高齢者の健康状況に合わせた、生活機能を整える技術を理解し習得できる。 2. 高齢者の健康課題に対する診断・治療過程における看護が理解できる。			
科目概要	回数	科目内容		担当
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	1. 高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本動作と看護ケア ・食事と看護ケア ・排泄と看護ケア・清潔と看護ケア ・生活リズムと看護ケア ・コミュニケーションと看護ケア 2. 老年期にある人の看護 ・認知機能障害に対する看護 ・身体可動性障害に対する看護 3. 健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開 ・診断過程における検査・治療・入院を必要とする高齢者の看護 ・薬物治療と看護 ・手術療法と看護 ・終末期の看護 ・退院時の看護と継続看護 終講試験およびまとめ		学習方法 講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験、課題提出により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			

科目名	老年看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅱ 老年看護学
担当教員	㊦		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 老年者におこりやすい病気や検査、治療の特徴と看護について理解する。 2. 老年者の生活機能をふまえたアセスメントを行い、必要な看護を考える。 3. 老年者の対象の特性をふまえて、必要な看護技術を習得する。			
科目概要	回数	科目内容		担当
	1 2 3 4 5 6 7・8 9・10 11・12 13 14 15	1. 高齢者の疾患の特徴 (認知症・脳血管障害・慢性心不全・高齢者肺炎、変形性関節症) 2. 高齢者の生理的特徴 3. 老年症候群 主要な症候とおこりやすい問題、高齢者と薬 4. 高齢者に特徴的な機能障害と看護過程 ヘンダーソン看護論から NANDA-I 看護診断へ 事例演習、技術演習、患者体験、ディスカッション 事例の病態 対象者の持てる力と望む生活を考える 高齢者の看護に必要な看護技術演習 学習の共有；プレゼンテーション 技術試験 終講試験およびまとめ		学習方法 講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験と 1 回のアセスメントに基づく技術試験「実技試験評価表」、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器 [7]脳・神経 [13]眼 [2]呼吸器 [3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断			

科目名	老年看護学実習Ⅰ		教育内容	専門分野Ⅱ老年看護学（臨地実習）		
担当教員	㊦		単位数（時間）	老年看護学実習Ⅰ 2単位（90）		
実習目的及び実習目標	<p>（目的） 老年期にある対象の特徴を理解し、健康課題をもつ高齢者への看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>（目標） 1. 高齢者と関わりその人と生活がわかり、日常生活において必要な援助を理解する。</p> <p>実習要項 参照</p>					
科目概要	科目名	科目のねらい		時間数	実習施設	
	老年看護学実習Ⅰ	地域で生活する高齢者を理解し、日常生活の視点を通して、高齢者の保健・医療・福祉の現状と社会支援の実態を把握する。		90	30	地域病院療養病床
					30	介護老人福祉施設
					30	介護老人保健施設
評価方法	老年看護学実習Ⅰの評価表に基づき評価する。					
教科書参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 その他、実習状況に合わせて、教科書・参考書を参照する。					

科目名	老年看護学実習Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅱ老年看護学（臨地実習）	
担当教員	㊦		単位数（時間）	老年看護学実習Ⅱ 2単位（90）	
実習目的及び実習目標	<p>（目的） 老年期にある対象の特徴を理解し、健康課題をもつ高齢者への看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>（目標） 1. 健康課題をもつ高齢者の生活障害と健康回復に必要な看護を理解する。</p> <p>実習要項 参照</p>				
科目概要	科目名	科目のねらい		時間数	実習施設
	老年看護学実習Ⅱ	健康課題をもつ高齢者の治療過程を理解し、健康回復に必要な看護を実践する。		90	病院病棟
評価方法	老年看護学実習Ⅱの評価表に基づき評価する。				
教科書参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 看護技術プラクティス 学研 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開、NANDA-I 看護診断 その他、実習状況に合わせて、教科書・参考書を参照する。				

## 小児看護学

- 目標：1. 子どもの成長・発達段階・発達課題を理解し、健康な生活を送るために必要な援助を理解する  
 2. 疾病を持つあらゆる発達段階にある子どもとその家族に対する予防及び回復への看護を理解する  
 3. 子どもを取り巻く医療・保健・福祉・教育の協同・連携の中で小児看護の役割を理解する  
 4. 自己の子ども観を形成し、小児看護のあり方について考える  
 5. 子ども一人ひとり人権をもった対象と捉え、尊重する関わりができる

科目名	単 位	時 間	講 師	科目のねらい	主な内容	2年			3年
						4～7	9～12	1～3	5～11
小児看護学概論	1	30		小児の概念及び小児の特徴を学び、小児看護の機能と役割を理解する。	1. 小児看護の対象と歴史 2. 子どもの成長発達 3. 子どもの権利と福祉 4. 家族看護 5. 小児のリスクマネジメント 6. 子どもの死生観 7. ハイリスク新生児と家族の看護 8. 小児看護過程の考え方 9. 入院が子どもと家族に与える影響と看護	—			
小児看護学方法論Ⅰ	1	15		小児の健康の動向及び、小児保健医療対策について学び、健康の維持増進、疾病予防のための保健活動を理解する。	1. 統計、社会情勢から見る子どもの現状と現代社会における諸問題 2. 子どもの栄養 3. 各種保健指導 4. 予防接種 5. 地域の保健活動の実際	—			
小児看護学方法論Ⅱ	1	30		小児各期に起こりやすい疾患や障害の病態生理・検査・治療について理解する。	1. 小児各期に起こりやすい疾患の病態生理、症状、検査、治療 1) 病気の起こり方 2) 成り行きの特徴 2. 成長発達をふまえた検査、治療の特徴	—			
				健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護を理解する。	1. 外来看護・在宅看護 2. 救命救急・災害看護 3. 急性症状、手術に伴う看護 4. 心身障害の子どもと家族看護 5. 入院による制限と看護	—			
小児看護学方法論Ⅲ	1	30		小児看護に必要な看護技術を習得する。	1. フィジカルアセスメント 2. 治療処置検査に伴う看護技術 3. 看護過程・看護技術演習 4. 先天性疾患、慢性疾患をもつ子どもと家族の看護		—		
小児看護学実習	2	90	丸田	子どもの日常生活を理解し、成長発達を促す保育、福祉の実際を学ぶ。 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解し、子どもの健康障害の予防、回復および成長発達を促す看護を学ぶ。	小児看護学実習 1) 保育所 2) 小児病棟・外来 3) 児童発達支援センター				—

科目名	小児看護学概論		教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学		
担当教員	㊦		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)		
科目目標	1. 小児看護の対象を理解し、看護の役割と課題が理解できる。 2. 子どもの成長発達について理解する。 3. 子どもの健康生活と養護について理解する。 4. 子どもの病気や死について考える事ができる。 5. 小児のリスクマネジメントがわかる。 6. 家族看護の重要性がわかる。 7. 入院や病気が子どもと家族に与える影響と看護がわかる。 8. 小児看護学看護過程の考え方がわかる。					
科目概要	回数	科目内容	学習方法			
	1	小児看護学ガイダンス 子どもが豊かに育つ条件 小児看護の歴史	講義 演習			
2	子どもの権利と大人の役割					
3・4	小児看護学に必要な理論					
5・6	子どもの成長発達					
7	子どもの福祉と養護					
8	子どもの死と看護					
9	ハイリスク新生児と家族の看護					
10・11	小児の家族看護					
12	病気や疾患をもつ子どもと家族の看護					
13	小児の看護過程					
14	小児のリスクマネジメント					
15	終講試験およびまとめ					
評価方法	1回の筆記試験、課題提出により評価する。					
教科書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 小児看護学[1]			医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 小児看護学[2]			医学書院	

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学
担当講師			単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科目目標	1. 統計、社会情勢から見る子どもの現状が理解できる。 2. 現代社会における諸問題を理解し大人の役割を考えることができる。 3. 子どもの栄養の特徴がわかる。 4. 各種保健指導の実際が理解できる。 5. 予防接種の実際が理解できる。 6. 地域の保健活動の実際がわかる。			
科目概要	回数	科目内容	学習方法	
	1	小児と家族の諸統計 出生率・死亡率の推移	講義 演習	
2	小児の栄養・離乳食について 母乳・ミルク・発達評価			
3	新生児・乳児への保健活動 保健所健診			
4	幼児・学童への保健活動 予防接種・性教育			
5	思春期・青年期の保健活動 学校保健安全法			
6	子どもの人権・法律 (子どもの家) 虐待・事故防止 小児慢性特定疾患			
7	地域保健活動の実際 トピックス			
7. 5	終講試験			
評価方法	1回の筆記試験、課題提出により評価する。			
教科書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 小児看護学[1]	医学書院	

科目名	小児看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学
担当講師			単位(時間数)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 小児各期に起こりやすい疾患の病態生理、症状、検査、治療について理解できる。 2. 小児の病気の起こり方や成り行きの特徴がわかる。 3. 成長発達をふまえた検査、治療の特徴がわかる。 4. 外来、在宅における看護の役割がわかる。 5. 子どもの急性症状や痛みの特徴と看護がわかる。 6. 子どもの救急看護、災害看護が理解できる。 7. 小児特有の疾患の特徴を理解し、今後の成り行きを予測することができる。 8. 疾患に応じた症状の観察点および発達段階に応じた観察方法がわかる。 9. 治療に必要な検査や処置がわかり、検査、処置に伴う看護について理解できる。			
科目概要	回数	科目内容	講師	学習方法
	1	第5章 免疫アレルギー疾患 第7章 呼吸器疾患		講義
2	第6章 感染症 第16・17章 眼・耳鼻科疾患			
3	第10章 血液・造血器疾患 第11章 悪性新生物			
4	第12章 腎疾患 第19章 事故・外傷	講義		
5	第4章 内分泌疾患 第9章 消化器疾患			
6	第8章 循環器疾患第14章 運動器疾患			
7	第13章 神経疾患第15章 皮膚疾患			
7	第1章 染色体異常、先天異常 第3章 代謝性疾患 第18章 精神疾患			
8	外来、在宅における子どもと家族の看護	講義 演習		
9	事故や災害を受けた子どもと家族の看護			
10	隔離が必要な子どもと家族の看護			
11	活動制限が必要な子どもと家族の看護			
12	手術を受ける子どもと家族の看護			
13	心身障害のある子どもと家族の看護			
14	急性症状、痛みのある子どもと家族の看護			
15	終講試験およびまとめ			
評価方法	1回の筆記試験、課題提出により評価する。			
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学[2] 医学書院			

科目名	小児看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅱ 小児看護学
担当講師	㊦		単位(時間数)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 疾患を持ちながら成長発達する子どもへの治療や看護のあり方が理解できる。 2. 子どもの苦痛や不安を最小限にする看護技術がわかる。 3. 社会資源の活用、他職種との連携を積極的に行うことの重要性がわかる。 4. 小児特有の疾患をもつ子どもと家族への看護が理解できる。			
科目概要	回数	科目内容	講師	学習方法
	1	急性リンパ性白血病の小児の看護		講義 演習
2・3・4	肺炎・気管支喘息の小児の事例演習			
5・6	小児の薬液計算と微量輸液管理			
7・8・9	小児のVS測定と観察、身体測定、吸入			
10	ネフローゼ症候群・川崎病の児と家族への看護			
11	慢性期にある子どもと家族の看護			
12	災害を受けた子どもと家族の看護・救急処置			
13	小児看護における医療安全			
14・15	技術試験・終講試験およびまとめ			
評価方法	1回の筆記試験、1回の技術試験「小児演習評価表」で評価する。			
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学[2] 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 別巻 臨床検査 医学書院 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 電子辞書；治療薬マニュアル、NANDA-I 看護診断			

科目名	小児看護学実習		教育内容	専門分野Ⅱ小児看護学（臨地実習）	
担当教員	㊦		単位（時間数）	2単位（90時間）	
科目目標	<p>目的：小児期にある対象の特徴を多角的に理解し、健康課題をもつ小児・家族への看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの日常生活を理解し、成長発達を促す保育と福祉の実際を学ぶ。</li> <li>2. 健康逸脱が子どもと家族に及ぼす身体的・精神的・社会的影響を理解し、予防・回復および成長発達を促す看護を学ぶ。</li> </ol> <p>実習要項 参照</p>				
科目概要	区分	科目のねらい		時間数	実習施設
	小児看護学実習Ⅰ	保育の実際を体験し、成長発達を助長するために必要な養護・教育がわかる。		30	保育所
	小児看護学実習Ⅱ	治療を受ける子どもと家族への看護がわかる。発達に遅れのある子どもと家族へのかかわりを通して、生活支援の必要性がわかる。		60	病児保育 小児外来 児童発達 支援センター
評価方法 評価基準	小児看護学実習の評価表に基づき評価する。				
教科書・ 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学[2] 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 別巻 臨床検査 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル NANDA-I 看護診断</p>				

## 母性看護学

- 目標： 1. 看護の対象を母性の側面から理解する  
 2. 人間のリプロダクションに対する理解を深める  
 3. ウェルネスの考え方を中心に妊娠分娩産褥に伴う看護方法を学ぶ  
 4. 母性保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う  
 5. 看護学生として母性看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	進度			
						1年	2年		3年
						1-3	4-7	10-3	5-12
母性看護学概論	1	15		母性看護の対象の特徴と看護の役割、性と生殖の意義について理解する。	1.母性看護の基盤となる概念 2.母性看護学のリスクマネジメント 3.母性看護における安全・倫理 4.母性看護の対象の理解 5.母性看護に必要な看護技術	—			
母性看護学方法論Ⅰ	1	30		母子の健康の動向及び母子保健医療対策について学び、健康の維持・増進・疾病予防のための保健活動を理解する。 妊娠・分娩期の生理的変化や経過及び看護について理解する。	1.母性看護の歴史の変遷 2.母性看護に関する組織と法律 3.母性看護を取り巻く環境 4.女性のライフサイクル各期の看護 5.リプロダクティブヘルスケア 1.不妊治療を受ける人々の看護 2.妊娠期における看護 3.分娩期における看護		—		—
母性看護学方法論Ⅱ	1	30		産褥期及び新生児の生理的変化や経過及び看護について理解する。 妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化をふまえて、必要な看護技術を習得する。	1.新生児期における看護 2.産褥期における看護 1.看護過程の展開 「正常妊産褥婦・新生児の看護」 2.技術演習 1) 乳房の手当て 2) 妊産婦体操、呼吸法 3) 腹帯の巻き方 4) 新生児の身体測定 5) 育児技術			—	
母性看護学方法論Ⅲ	1	15		異常妊娠・異常分娩・異常産褥及び異常新生児の病態・治療と母子、家族に及ぼす影響について理解する。	1.不妊治療 2.妊娠の異常 3.分娩の異常 4.産褥の異常 5.新生児の異常		—		
		15		ハイリスク及び異常妊婦・産褥婦・褥婦・やその家族への看護について理解する。	1.ハイリスク妊婦の看護 2.異常のある産婦の看護 3.異常のある産褥婦の看護 4.異常のある新生児の看護 5.精神障害合併妊婦と家族の看護			—	
母性看護学実習	2	90		妊婦・産婦・褥婦および新生児の経過を通して対象の理解を深め、援助ができる能力を養う。	1.産科外来・産科病棟 1)生理的妊娠経過の観察と保健指導 2)安全で安楽な満足した分娩を終えられるための看護 3)産褥・新生児の生理的経過の観察と家族を含めた看護 4)母子に関連した諸制度と社会資源				—



科目名	母性看護学方法論Ⅱ		教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学
担当講師			単位数(時間)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 産褥の正常な経過を理解する。 2. 新生児の生理と看護を理解する。 3. 妊婦・産婦・褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、看護を理解する。 4. 母性看護における看護過程の展開について、他の看護領域との共通性と異質性を理解し、各期のヘルスニードの視点でアセスメントができる。 5. 健康の維持増進や心身の満足につながる援助を含んだ看護計画が立案できる 6. 立案した看護計画に基づいて、基本的な看護技術が実施できる。			
科目概要	回数	科目内容	学習方法	
	1・2 3・4 5・6 7	3. 産褥期における看護 1) 褥婦の生理 2) 褥婦の生活指導、家族計画 4. 新生児における看護 新生児の生理と看護 (計測・沐浴演習)	講義 演習	
	8・9 10・11 12 13 14 15	母性看護における看護過程の考え方 妊産褥期・新生児期のアセスメントと看護介入 妊産褥期の援助技術 新生児期の援助技術 技術試験 終講試験およびまとめ		
評価方法	1回の筆記試験 と 1回の技術試験「母性演習評価表」、看護過程の演習記録、出席点で評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル、NANDA-I 看護診断			

科目名	母性看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅱ 母性看護学
担当講師			単位数(時間)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 不妊治療を理解し、治療をうける人々の状況・状態におかれた援助について理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の特殊な状況・状態の概念を理解し、各々の状況・状態におかれた母子及び家族への援助について理解する。			
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7	1. 妊娠と不妊 2. 妊娠経過 I 妊娠経過 II 3. 異常妊娠と合併症妊娠 4. 分娩の経過 正常と異常 5. 産褥の経過 正常と異常 (分娩監視装置含む) 6. 産褥と新生児 新生児の異常		講義
	8～14 15	1. ハイリスク及び異常妊婦・産婦・褥婦の心理と看護 2. ハイリスク状態の新生児の看護 終講試験およびまとめ		
評価方法	1回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院			

科目名	母性看護学実習	教育内容	専門分野Ⅱ母性看護学（臨地実習）	
担当教員	㊦	単位数(時間)	2単位（90時間）	
実習目的及び実習目標	<p>(目的) 妊婦・出産・育児にかかわる女性の健康課題を理解し、家族を含めた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>(目標) 1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、家族を含めた対象の看護を学ぶ。 2. 周産期からウィメンズヘルスへ広がる考え方を意識し看護の役割を学ぶ。</p> <p>実習要項 参照</p>			
科目概要	科目名	科目のねらい	時間数	実習施設
	母性看護学実習	<p>妊娠・分娩・産褥期にある人と、新生児・家族の看護がわかる。</p> <p>地域で行われている、母子や女性に対する社会的施策を知り、地域・母子・家族に必要な看護の役割がわかる。</p>	90	産科病棟 産科外来 地域
評価方法 評価基準	母性看護学実習の評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学（1）母性看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学（2）母性看護学各論 医学書院</p> <p>写真でわかる母性看護技術 インターメディカ</p> <p>エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規</p> <p>看護診断を導く情報収集アセスメント 学研</p> <p>電子辞書；治療薬マニュアル、NANDA-I 看護診断</p> <p>その他、実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する</p>			

# 精神看護学

- 目標： 1. 精神に障害を持つ人と家族について理解する  
 2. 人間の心を理解し、精神障害に対する理解を深める  
 3. セルフケア理論を中心に精神・問題行動に対する看護方法を学ぶ  
 4. 精神保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う  
 5. 看護学生として精神看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単 位	時間	講 師	科目のねらい	主な内容	1年	2年		3年
						10～3	4-9	10～12	5～9
精神看護学概論	1	15		こころの発達と健康について理解し精神看護学の概要と精神看護の機能と役割を学ぶ	1. こころとは 2. ストレスと防衛機制 3. こころを病むとは 4. 人間と発達学の特徴 5. 精神看護の目的・対象・特徴 6. こころを病む対象への看護ケア理論 7. ケアを必要とする状況 8. 精神看護における倫理	—			
精神看護学方法論 I	1	30		こころの健康の保持、増進に対する基礎的知識を学び看護で活用する方法について理解する	1. 精神保健の歴史 2. 精神保健福祉法の現状 3. 精神障害者のケアマネジメント 4. セルフヘルプとソーシャルサポート 5. 精神障害者の医療・福祉援助におけるチームアプローチ 6. 現代社会の諸問題と精神保健福祉 7. 精神障害と社会文化 8. 地域支援移行の展開 9. 地域生活支援の展開 10. 特定の状況に対する精神保健福祉		—		
精神看護学方法論 II	1	30		精神障害のメカニズムを考え主な疾患の病態・治療と生体に及ぼす影響について学ぶ	1. 精神科で出会う人々 主な精神疾患の理解 2. 精神症状と状態像の理解 3. おもな精神科治療			—	
				精神に障害のある患者や家族への援助に必要な知識・技術を学ぶ	1. 精神科における看護の役割 2. 身体をケアする 3. 看護援助技法			—	
精神看護学方法論 III	1	30		精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護技術を修得する	1. 精神科におけるコミュニケーション技法とプロセスレコード 2. 精神疾患をもつ人の生活変化を中心とした看護過程の展開			—	
精神看護学実習	2	60		精神に障害がある患者の理解を深め患者との関わりを通して日常生活自立に向けての看護を学ぶ	1. 精神科病棟 1) 精神病院に入院している患者との関係と自己洞察 2) 精神疾患をもつ人の日常生活自立に向けての看護実践 3) 治療環境の調整と安全管理				—
				精神に障害をもちながら地域で生活している人を理解し社会支援の実態を理解する。	2. 地域作業所 1) 地域における作業活動の場の理解 2) 地域における精神疾患をもつ人のサポートシステム 3) 精神保健看護における課題と展望				—

科目名	精神看護学概論	教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学
担当教員	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)
科目目標	1. 精神看護の目的と意義について理解する。 2. 精神看護の対象とその理解方法について考えることができる。 3. こころの発達と健康について理解する。 4. 精神看護におけるケア理論と相互関係について理解する。 5. 精神看護における倫理について理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1	こころとは	講義
	2	ストレスと防衛機制	
	3	こころを病むとは ・ 人間と発達	
	4	精神看護の特徴	
	5	こころを病む対象への看護ケア理論	
	6	ケアを必要とする状況	
	7	精神看護における倫理	
7.5	終講試験		
評価方法	1 回の筆記試験と提出課題により評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院		

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学	
担当講師	㊦	単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	
科目目標	1. 精神医療保健に係わる法制度と現代社会における精神保健医療福祉活動について理解し、こころの健康の保持増進に対する基礎的知識を習得する。 2. 保健医療福祉の総合的視点から現代社会のアルコール・薬物依存症、災害・ジェンダーなどの精神的諸問題について理解する。			
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法
	1・2	1. 精神保健福祉の歴史		講義
	3・4	2. 精神保健福祉法の活動と現状		
	5・6	3. ケアの構造と治療環境 精神障害者のケアマネジメント		
	7	4. セルフヘルプとソーシャルサポート		
	8	5. 精神障害者の医療・福祉援助におけるチームアプローチ		
	9	6. 現代社会の諸問題と精神保健福祉		
	10	7. 精神障害と社会文化		
	11	8. 地域移行支援の展開		
	12	9. 地域生活支援の展開		
13・14	10. 特定の状況に対する精神保健福祉			
15	終講試験およびまとめ			
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] [2] 医学書院			

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学		
担当講師		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)		
科目目標	1 精神障害のメカニズムを考え主な精神疾患の病態・精神症状と状態像を理解する 2 精神科治療とアプローチの方法について理解し、生体に及ぼす影響について理解する 3 日常生活行動と精神の健康問題、問題状況時の援助について、必要な知識・技術を理解する				
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法	
	1 2 3	1. 精神科で出会う人々		講義	
	4 5 6	2. 精神科での治療			
	7				
	8 9 10	1. 精神科における看護の役割			講義
	11 12 13	2. 身体をケアする			
14	3. 看護援助技法				
15	終講試験およびまとめ				
評価方法	1 回の筆記試験により評価する。				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] [2] 医学書院				

科目名	精神看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学
講師教員	㊟		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1 看護実践における自己洞察の意義と方法について理解する 2 精神症状を持つ患者の看護過程の展開について理解する 3 精神症状を持つ患者に必要な看護技術について理解する			
科目概要	回数	科目内容		学習方法
	1～4 5～9 10～ 14 15	1. 精神科におけるコミュニケーション技法とプロセスレコード 2. 精神疾患をもつ人の生活変化を中心とした看護過程の展開 1) 統合失調症の消耗期にある患者の看護 2) 統合失調症急性期の患者の看護 3) そううつ病の患者の看護 (そう状態) 4) そううつ病(うつ)患者の看護 3. 精神看護技術と問題行動への関わり 終講試験およびまとめ		講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験と 提出課題 と 看護過程の演習記録 により評価する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 電子辞書；治療薬マニュアル NANDA-I 看護診断  その他演習状況に合わせて既習学習した資料・文献を活用する			

科目名	精神看護学実習		教育内容	専門分野Ⅱ 精神看護学 (臨地実習)
担当教員	㊟		単位数 (時間)	2 単位 (90 時間)
実習目的及び実習目標	(目的) 精神に障害をもつ人の特性をふまえて、対象との関係を形成し、健康障害や回復過程に応じた看護を展開する能力を養う。 (目標) 1. 精神に障害がある患者の理解を深め、患者との関わりを通して、日常生活自立に向けて看護を学ぶ。 2. 精神に障害をもちながら地域で生活している人を理解し社会支援の実態を理解する。 3. 精神に障害がある患者との関わりを通して、自己洞察をして相互作用を学ぶ。  実習要項 参照			
科目概要	区分	科目のねらい		時間数
	精神看護学実習Ⅰ	精神に障害がある患者の理解を深め患者との関わりを通して 日常生活自立に向けての看護を学ぶ。		60
	精神看護学実習Ⅱ	精神に障害をもちながら地域で生活している人を理解し、社会支援の実態を理解する。		30
実習施設			精神科病棟	市内作業所
評価方法	精神看護学実習ⅠⅡの評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 医学書院 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 電子辞書；治療薬マニュアル NANDA-I 看護診断 その他実習状況に合わせて既習学習した資料・文献を活用する			